

町のシンボル半田山のふもとに佇む、史跡桑折西山城。
豊かな自然に囲まれ、土塁や空堀などの遺構（写真中央）
が良好な状態で見る事ができる（4月15日撮影）



大きく動いた意味のある出来事であり、そこに魅力を感じます。

ここ数年で城跡周辺が整備され、町なかにも桑折西山城跡がはっきりと見えるようになりました。「行ってみよう」と思われる場所になったと思います。観光客にも分かりやすいように、駅のホームに案内板があっても良いかもしれません。

いよいよ今年は、全国の歴史ファンが集まる「全国山城サミット」が開催されます。町民の中で「桑折町には何もない」と口にする人もいますが、これを機に、町に大切な遺産があることを実感し、町民の自信につながれば良いと思います。町内には、桑折西山城や旧伊達郡役所など、全国的に見ても価値のある遺産が多く残っています。単なるイベントだけで終わらず、その後、町の遺産を活かして、歴史資料館などの施設を作ろうという動きが出たり、これからの大切に保存していこうと思う人が一人でも増えたりすることを期待しています。

全国山城サミット桑折大会へ――

伊達氏発祥の地 | vol.1 | 桑折西山城の魅力

伊達氏全盛期の居城として、国の史跡にも指定される「桑折西山城」。いよいよ今年の秋、この地を舞台に「全国山城サミット桑折大会」が開催されます。イベント開催まで、桑折西山城の魅力を紹介します。今回は城を巡る歴史と整備の経過を学びましょう。

魅力あふれる歴史の舞台

山中に広がる、広大な史跡「桑折西山城」。1532年（天文元年）ごろ、「独眼竜」として知られる伊達政宗の曾祖父、睦奥国守護・伊達植宗（14代）が築いた山城です。1548年（天文17年）に嫡男の伊達晴宗が山形県米沢に移るまで、東北地方最大の戦国大名伊達氏の本拠地でした。

城は、大きく本丸・二ノ丸を中心とした部分と、中館・西館を中心とする部分に分かれます。発掘調査の結果、本丸には伊達植宗の政治の場となったと見られる建物跡など、伊達氏本拠時の遺構が残されており、中館・西館は、戦国時代末期に再び大改修されていることが分かっています。



町郷土史研究会 副会長
齊藤 純雄さん

この地で、伊達植宗は、戦国家法「塵芥集」の制定や周辺大名との「養子縁組・政略結婚」などの政策を行いました。また、越後国守護・上杉定実より贈られた伊達氏家紋「竹に雀」の元となる家紋を拝領したのも、この城内で起きた出来事である可能性が高いと言われています。

この他、今の穏やかな町並みからは想像できないような、大きな戦いも起こりました。7年にもわたり、植宗と晴宗の親子軍が南東北を二分した「天文の

乱」です。合戦に勝った晴宗が本拠を米沢に移し、桑折西山城は廃城に。しかし、城の一部は後に改修され、伊達政宗が豊臣秀吉との決戦に備えて築いたとも考えられています。

さまざまな歴史的な出来事の舞台となった、桑折西山城。町郷土史研究会副会長の齊藤純雄さんに、桑折西山城の魅力と今後期待することを聞きました。

歴史遺産の宝庫

かつて伊達氏は、隣の旧梁川町を拠点にしていた一族でしたが、睦奥国守護就任を機に桑折町へ移り、桑折西山城を築きました。伊達氏の歴史の中で見ると、桑折西山城が伊達氏の本拠であったのは、17年間と短い期間でしたが、伊達氏の歴史が大